

東北森林科学会 第 13 回大会

2008 年度（平成 20 年度）

プ ロ グ ラ ム

と き : 2008 年 8 月 25 日（月）～ 26 日（火）

と ころ : コラッセふくしま 4 階（福島市三河南町 1 - 20）

主 催 : 東北森林科学会

共 催 : 日本森林技術協会東北支部連合会

後 援 : 福 島 県

大会参加者の皆様へ

受 付

日時 8月25日(月) 午前9時より

場所 4階多目的ホール前

受付時に大会講演要旨集を配布致します。また、事前に参加費、懇親会費をお振り込み頂いていない方は、受付時にお支払いください。事前にお振り込みいただいた参加費は返却いたしかねますのでご了承ください。

大会参加費(当日) (要旨集代を含む)	2,500 円
懇親会参加費(当日)	4,000 円

総 会

東北森林科学会及び日本森林技術協会東北支部連合会の総会を下記の通り行います。

日時 8月25日(月) 16:30 - 17:50

場所 中会議室 401

懇親会

日時 8月25日(月) 18:00 - 19:30

場所 コラッセふくしま 12階展望レストラン「Ki-ichigo(きいちご)」

編集委員会

日時 8月25日(月) 10:00 - 11:00

場所 4階 主催者室 (8ページ 見取り図参照)

理事会

日時 8月25日(月) 11:00 - 12:30

場所 4階 主催者室 (8ページ 見取り図参照)

昼食、宿泊等について

昼食は近隣のレストラン、コンビニエンスストア等をご利用ください。宿泊につきましては、各自でご対応お願い致します。また、会場には十分な駐車スペースがございませんので、自動車でのご来場はご遠慮ください。

大会日程

	8月25日(月)			8月26日(火)	
9:00	受付				ポスター準備
10:00	ポスター準備	編集委員会		テーマ別セッション	ポ ス タ ー セ ッ タ ー シ ョ ン
11:00					
12:00	ポスターセッション	理事会			
13:00					ポスター回収
14:00			口頭発表		
15:00	ポスター回収/準備	テーマ別セッション			
16:00					
17:00	東北森林科学会総会/ 日本森林技術協会 東北支部連合会総会				
18:00	懇親会				

テーマ別セッション

テーマA 8月25日(月) 13:30-16:30 小会議室 402

マツ材線虫病への取組み

マツ材線虫病は、現在東北地域で急速に北上を続け、内陸ではアカマツ林、海岸ではクロマツ林を主体に被害を拡大している。このため、監視等による被害地拡大の防止、被害木の伐倒処理、薬剤散布と注入等の防除作業の実施、生物学的な防除法の検討、抵抗性品種の開発などの対策が行われている。本セッションでは、これら各分野での取組みの現状報告を通して、東北地域におけるマツ材線虫病に対する多面的な防除方法の相互理解と担当者間の効果的な連携を図りたい。

1. 東北地方におけるマツノザイセンチュウ抵抗性育種事業の進捗状況

織田春紀(森林総合研究所林木育種センター東北育種場)

- | | |
|---|----------------------------|
| 2. 福島県におけるマツ材線虫病害の現状 | 吾妻芳行(福島県農林水産部森林整備課) |
| 3. GIS で松くい虫の防除戦略を考える | 小澤 洋一(岩手県林業技術センタ) |
| 4. <i>Beauveria bassiana</i> によるマツノマダラカミキリの防除 | 前原紀敏(森林総合研究所東北支所) |
| 5. アカゲラ誘致のための人工巣丸太の架設実験 | 中村充博(森林総合研究所東北支所) |
| 6. アカマツのマツノザイセンチュウ抵抗性候補木における選抜効果の推定 | 蓬田英俊(岩手県林業技術センタ) |
| 7. 抵抗性クロマツ種苗の供給に向けて | 今野幸則宮城県林業技術総合センター) |
| 8. 福島県における抵抗性マツのさし木増殖 | 渡邊次郎(福島県林業研究センター) |
| 9. マツ材線虫病に強いマツの生産に向けて - 九州育種場における抵抗性マツ育種事業のとりくみ - | 倉本哲嗣(森林総合研究所林木育種センター九州育種場) |

コーディネーター & 連絡先

織田春紀 (森林総合研究所 林木育種センター東北育種場): 福島県と共催
 〒020-0173 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字大崎 95
 TEL 019-688-4518 FAX 019-694-1715
 E-mail ho24414@affrc.go.jp

テーマB 8月26日(火) 9:00-11:30 中会議室 401

自然な木造住宅の建て方を考える () - スローシェルターを支える建築の林業の技術 -

地域産の木材などの自然な建材、伝統的な建築技術、そして建築技術者である建築職人は、自然で安全かつ健康な住宅(スローシェルター)の三つの必須条件である。

本セッションでは、昨年のセッションを踏まえ、先ず報告者が間伐材の活用に関する技術(構法)、現在の高気密・高断熱住宅の問題点とその解決方向、そして建築技術を支える大工・工務店の技術と経営の現状及び振興策などについて明らかにする。さらに、本年はこうした建築技術を支える素材生産・木材加工業の技術の現状と在り方についても、構法との関連で一定の問題提起をする。次ぎに討論を通じて、安全で安心かつ負担しうる価格の住宅供給のあり方とその林業振興の方策について議論を深めたい。

- | | |
|--|----------------------|
| 1. 間伐材を用いた合成部材を住宅に組み込む試みの報告 | 増田一真(増田建築構造事務所) |
| 2. 間伐材を用いた住宅設計 | 石田信男(石田建築設計事務所) |
| 3. 集成材に頼らない合成材製作の可能性について | 浜尾博文(エーユーエム構造設計株式会社) |
| 4. 低炭素社会を考える - 地域材を使った高気密高断熱住宅 - | 川田季彦(川田建築設計事務所) |
| 5. 木づくりの家やまがたネットワークのとりくみについて | 安部政昭(山形県木造住宅活性化協議会) |
| 6. 地域の木造住宅供給と林業・素材生産の技術的特徴 - 不定尺材利用技術との関連で - | 菊間 満(山形大学) |

コーディネーター & 連絡先

菊間 満 (山形大学農学部生物環境学科森林環境資源学講座)
 〒997-8555 鶴岡市若葉町 1-23 Tel : 0235-28-2924 (菊間研究室)

ポスターセッション

今年度も2日間に分けて実施します。セッション開始時間までにご自分の番号のパネルにポスターを貼ってください。ポスターは画紙で貼らず、虫ピンあるいはテープでお願いします（会場にも用意いたします）。また、コアタイムでは発表者はポスターの前で説明をして頂きます。

ポスターセッションA（1日目）

8月25日（月）10:30 - 13:30 4階多目的ホール

9:00 - 10:30 ポスター準備

12:30 - 13:30 コアタイム

13:30 - 14:30 ポスター回収

- 1 クロマツ林内データによる音響解析と作曲 伊藤優美（山形大学農学部）
- 2 キタゴヨウの年輪成長における同調性の解析 佐々木達哉（山形大学農学部）
- 3 森林内の音の干渉による音圧変化 齋藤明大（山形大学農学部）
- 4 ブナ幼樹の形態的特徴の把握とモデル化 武山淳子（山形大学農学部）
- 5 強度な間伐によるスギ人工林のゆくえ 今井辰雄（福島県林業研究センター）
- 6 東北地方におけるキバチ類の分布と材変色被害の実態 田端雅進（森林総合研究所東北支所）
- 7 集合フェロモン剤を用いたナラ類の生立木によるカシナガキクイムシ誘殺の試み 斉藤正一（山形県森林研究研修センター）
- 8 スギ黒点病菌の子実体形成過程と孢子飛散時期 窪野高徳（森林総合研究所）
- 9 スギタマバエ虫えい形成過程における組織構造の変化 市原優（森林総合研究所東北支所）
- 10 岩手県産針葉樹 LVL の強度性能（ ） - 間柱サイズの LVL の強度性能 - 東野正（岩手県林業技術センター）
- 11 岩手県産針葉樹 LVL の強度性能（ ） - 強度等級区分単板を用いた LVL の強度性能 - 多田野修（岩手県林業技術センター）
- 12 スギこぶ病のヘキササン抽出物 佐々木唯（山形大学農学部）
- 13 スギ心材の香気成分の分析 水野督子（山形大学農学部）
- 14 スギ樹皮の保管条件別含水率変化 水田展洋（宮城県林業技術総合センター）
- 15 福島県産スギ板材の強度性能（ ） 遠藤啓二郎（福島県林業研究センター）
- 16 県産スギ平角材の乾燥 高信則男（福島県林業研究センター）
- 17 木材構造部材の乾燥方法と仕口接合部性能の関係把握 渡部秀行（福島県林業研究センター）
- 18 乾シイタケ栽培作業の省力化（ ） - 伏せこみ方式の違いによる発生量 - 小原孝文（岩手県林業技術センター）
- 19 落葉広葉樹を用いた樹種別オガ粉によるシイタケ栽培 菅原冬樹（秋田県農林水産技術センター）
- 20 林床整備を行ったアカマツ林におけるキノコ相の推移 - 発生キノコの位置 - 阿部実（秋田県農林水産技術センター）
- 21 ゼンマイ胞子の保存温度による発芽状況 古澤優佳（山形県森林研究研修センター）
- 22 ヤマブドウの貴腐化に関する基礎的研究 - ヤマブドウ果皮抽出成分の抗菌活性 - 伊藤傑（山形大学農学部）
- 23 オオイチョウタケ林床栽培技術の検討 更級彰史（宮城県林業技術総合センター）
- 24 球状木材によるキノコ栽培 菱川敬太（甲南大学大学院）
- 25 木質バイオマス効率利用システム 鈴木健治（山形県森林研究研修センター）
- 26 岩手県における馬搬作業の事例分析 渡邊篤（岩手大学大学院農学研究科）

- 27 低コスト作業路作設コストに影響する要因分析 平林慧遠(岩手大学大学院農学研究科)
- 28 森林空間における運動強度が身体に及ぼす生理反応と心理反応の特徴 平野啓祐(岩手大学大学院農学研究科)
- 29 山岳林における低コスト伐出作業システムのための最適路網密度 佐々木貴博(岩手大学大学院農学研究科)
- 30 岩大型作業路の路体支持力の経年変化 高橋佳史(岩手大学大学院農学研究科)
- 31 エネルギー利用のための土場残材運搬・チップ化作業の分析 萩原真広(岩手大学大学院農学研究科)
- 32 大工・工務店による木造住宅建築の現状と課題 - 山形県鶴岡市の施工事例から - 小川三四郎(山大農学部)

ポスターセッションB(2日目)

8月26日(火)9:30-12:30 4階多目的ホール

25日14:30-17:00または26日9:00-9:30 ポスター準備

11:30-12:30 コアタイム

12:30-13:00 ポスター回収

- 1 冷温帯落葉広葉樹における水分、養分、光の空間分布構造 上野直人(東北大学大学院農学研究科)
- 2 海岸マツ林はどれだけ塩分を捕まえているのか 斎藤寛(福島県林業研究センター)
- 3 クスサンによる落葉広葉樹選好性の地域間比較 菊地伸哉(岩手大学農学研究科)
- 4 ニセアカシア種子の発芽に対するヒートショックの影響の違い - 埋土種子ととりまき種子の比較 - 新田響平(山形大学農学部)
- 5 アオダモ果実に発芽にみられる地理変異の検証 田井富士子(山形大学農学部)
- 6 野生動物の生態環境としての樹洞資源からみた里山の孤立林ブナ林の評価 早川悟史(山形大学農学部)
- 7 多雪地における主要樹種の根系分布および発達過程 若木央(山形大学農学部)
- 8 谷地幅湿地における地下水位と年輪解析による湿性遷移傾の解明 土門謙太郎(山形大学農学部)
- 9 メグスリノキの雄性両全性同株個体の観察事例の紹介 半田孝俊(森林総合研究所林木育種センター東北育種場)
- 10 スギ人工林と落葉広葉樹林における種子発芽と環境シグナル 清和研二(東北大学大学院農学研究科)
- 11 落葉広葉樹の紅葉過程における光合成活性の変化パターン 湯本沙織(岩手大学大学院農学研究科)
- 12 ジベレリン剥皮挿入のヒバの着花促進効果にみられるクローンと処理時による違い 織部雄一朗(森林総合研究所東北育種場)
- 13 谷地幅湿地保全のための基礎的研究 平俊太郎(山形大学農学部)
- 14 スギ伐採跡地における植物の出現パターンと広葉樹の植被率による更新判定 和田覚(秋田県農林水産技術センター)
- 15 広葉樹林からの距離とスギ人工林への広葉樹の侵入状況 上野 満(山形県森林研究研修センター)
- 16 クロマツさし木苗木の林地適応性 渡部公一(山形県森林研究研修センター)
- 17 スギポット苗の移植当年における根系と地上部の成長発達 - 施肥の影響、地植え苗との比較 - 藤谷哲也(岩手大学大学院農学研究科)
- 18 ササ除去がコナラ幼樹の個葉形態に与える影響 田中美咲(岩手大学大学院農学研究科)
- 19 ストレス波伝播速度と呼吸活性による立木樹幹腐朽の検知 伊藤京平(岩手大学大学院農学研究科)
- 20 邦産カラマツの立地生理特性 - 芽生えの培地水分反応におけるアカマツとの差異 - 及川えみ(岩手大学大学院農学研究科)
- 21 伐採35年後の苗場山ブナ天然更新試験地における択伐率による更新状況の違い 八木橋勉(森林総合研究所東北支所)
- 22 無間伐のスギ - 落葉広葉樹混交林における枯損と幹直径成長 國崎貴嗣(岩手大学農学部)
- 23 「緑の回廊」に作った刈り払い道におけるほ乳類の利用状況 長岐昭彦(秋田県農林水産技術センター)

- 24 カラマツ人工林における間伐が繁殖鳥類群集に与える影響 - 間伐後6年目までの変化 -
鈴木祥悟(森林総合研究所東北支所)
- 25 ナラ類の樹幹下部1mにおけるカシノナガキイムシの穿孔状況
在原登志男(福島県林業研究センター)
- 26 近接したスギ人工林3林分の樹冠通過雨量の比較
金子智紀(秋田県農林水産技術センター)
- 27 ナラ枯れによる土砂崩壊防止機能の低下
稲田瑛乃(山形大学農学部)
- 28 都市流域内保存緑地の保全と活用に向けた情報づくり
松山正将(北工業大学工学部)
- 29 スギ精英樹クローン検定林と実生検定林の30年次までの成長比較
木戸口佐織(岩手県林業技術センター)
- 30 根元曲がり抵抗性品種間の交配家系と在来実生家系における多雪地帯での生育特性の比較
宮下智弘(森林総合研究所林木育種センター東北育種場)
- 31 ヒバの倍数性育種 - オリザリン処理による4倍体の育成 - 田中功二(青森県農林総合研究センター林業試験場)
- 32 ブナのつぎ木増殖に関する研究 - 穂木の採取時期と保存期間が活着に及ぼす影響 -
小澤創(福島県林業研究センター)
- 33 スギ次代検定林におけるファコップを用いたヤング率評価の検討
壽田智久(福島県林業研究センター)

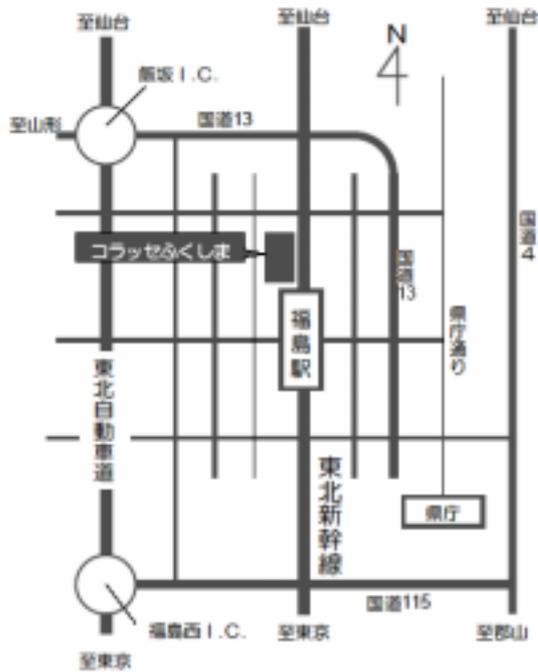
口頭発表

8月25日(月) 13:30 - 16:30 中会議室 401

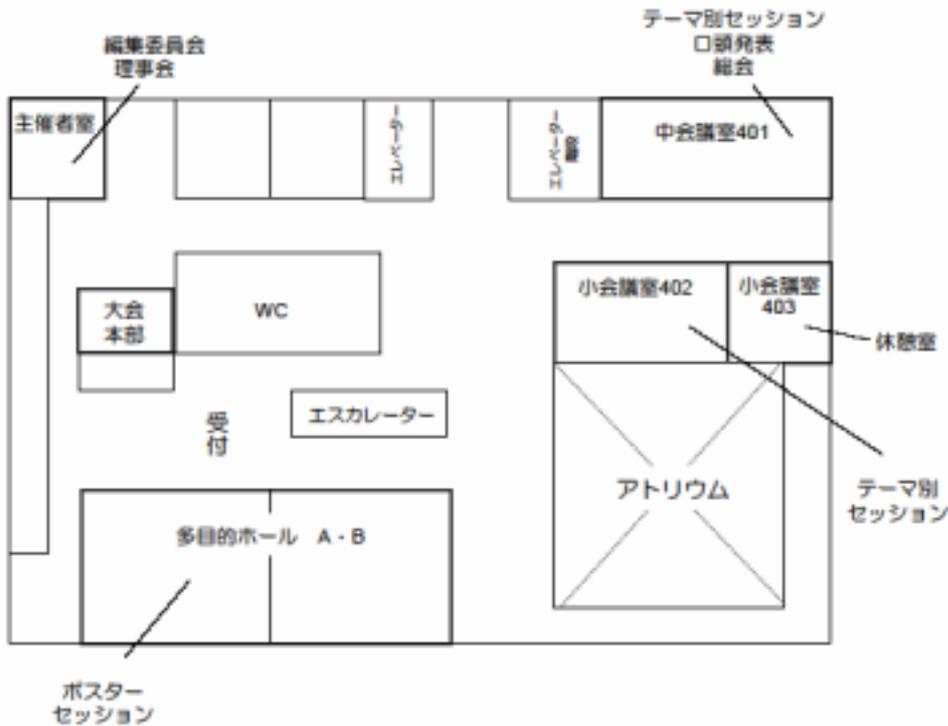
口頭発表は1題あたり15分(発表12分, 質疑3分)厳守でお願いいたします。発表者には次の発表者の座長をしていただきます。使用できる機材はOHPと液晶プロジェクターです。パワーポイント用ファイルは、13:00までにUSBフラッシュメモリあるいはCD-ROMの形で会場の係にお渡しください。なお、会場のパソコンは、OSはWindowsXP, PowerPoint2003以降の予定です。パソコンの持ち込みはお断りいたします。

- 13:30-13:45 マツを枯らすのはマツノザイセンチュウだけ? - *Bursaphelenchus* 属線虫10種のマツに対する病原性調査 -
相川拓也(森林総合研究所東北支所)
- 13:45-14:00 要防除木特定のためのマツノマダラカミキリ生息確認調査
中村克典(森林総合研究所東北支所)
- 14:00-14:15 神社境内に発達するフジ巨木群の生理と保全
橋本良二(岩手大学農学部)
- 14:15-14:30 スギ人工林の間伐前後における林内気温、地温の変化
齋藤武史(森林総合研究所)
- 14:30-14:45 列状間伐実施林分に対する定性間伐導入時における高性能林業機械と防護具使用効果の検討
澤田智志(秋田県農林水産技術センター森林技術センター)
- 14:45-15:00 スギ高齢級人工林のスギ・ヒバ複層林化に向けた取り組み
尾上好男(東北森林管理局森林技術センター)
- 15:00-15:15 カラマツ人工林帯状皆伐・地掻き処理後のウダイカンバの定着と成長
杉田久志(森林総合研究所東北支所)
- 15:15-15:30 多目的キノコの組み合わせによる里山での通年発生
中村人史(山形県森林研究研修センター)

大会会場案内図



4階見取り図



大会に関する問い合わせ先

〒997 8555 山形県鶴岡市若葉町1-23 山形大学農学部生物環境学科内

東北森林科学会 第13回大会運営委員会

事務局: TEL 0235-28-2933 FAX 0235-28-2950(小山), TEL & FAX 0235-28-2928 (林田)

E-mail : hkoyama@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp, hayashida@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp